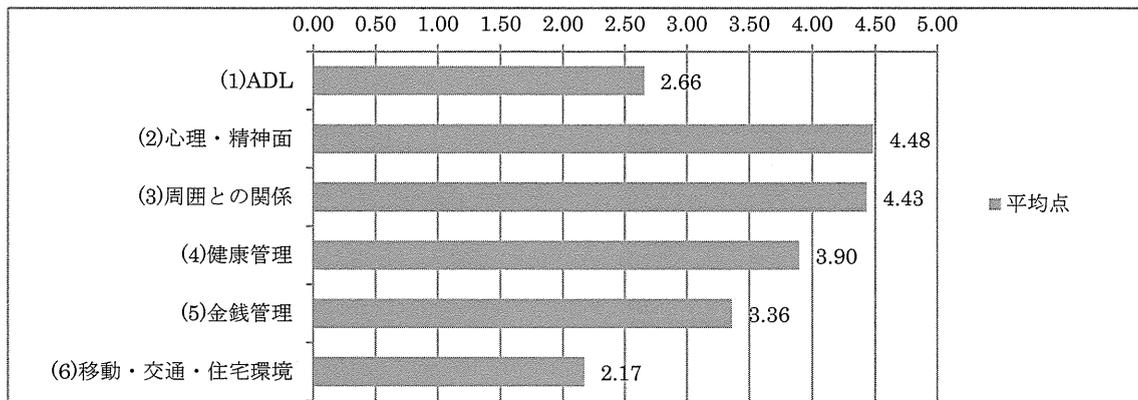


図40 対象利用者が大切にしていると思われる項目



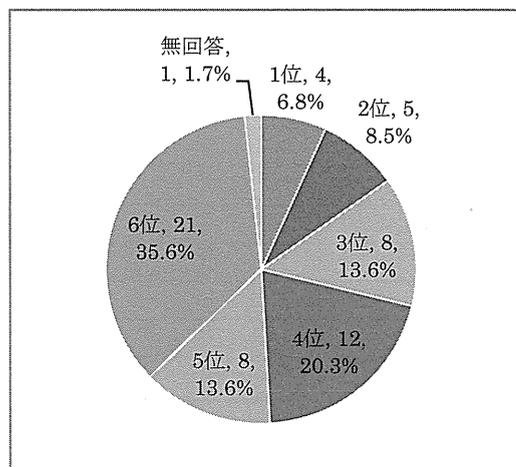
1) ADL

対象利用者が大切にしていると思われる度合いは高くなかった。

表41 ADL

	度数	パーセント
1位	4	6.8%
2位	5	8.5%
3位	8	13.6%
4位	12	20.3%
5位	8	13.6%
6位	21	35.6%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図41 ADL



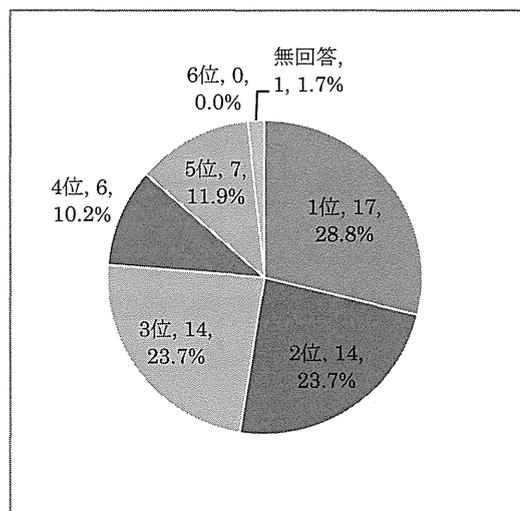
2) 心理・精神面

対象利用者が大切にしていると思われる度合いは高かった。

表 4 2 心理・精神面

	度数	パーセント
1位	17	28.8%
2位	14	23.7%
3位	14	23.7%
4位	6	10.2%
5位	7	11.9%
6位	0	0.0%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 4 2 心理・精神面



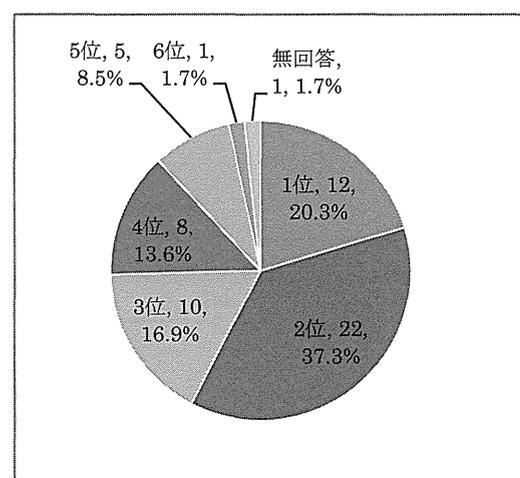
3) 周囲との関係面

対象利用者が大切にしていると思われる度合いは高かった。

表 4 3 周囲との関係面

	度数	パーセント
1位	12	20.3%
2位	22	37.3%
3位	10	16.9%
4位	8	13.6%
5位	5	8.5%
6位	1	1.7%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 4 3 周囲との関係面



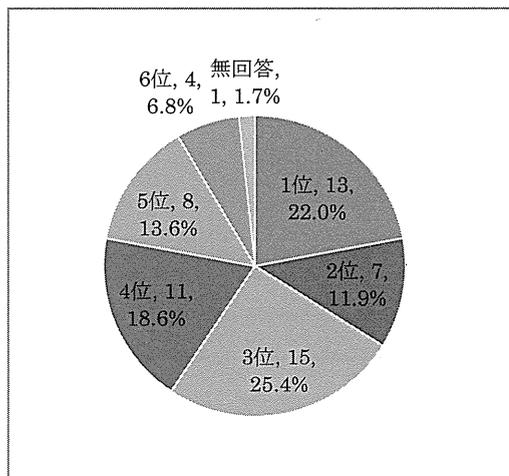
4) 健康管理

対象利用者が大切にしていると思われる度合いは高くもなく低くもなかった。

表 4 4 健康管理

	度数	パーセント
1位	13	22.0%
2位	7	11.9%
3位	15	25.4%
4位	11	18.6%
5位	8	13.6%
6位	4	6.8%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 4 4 健康管理



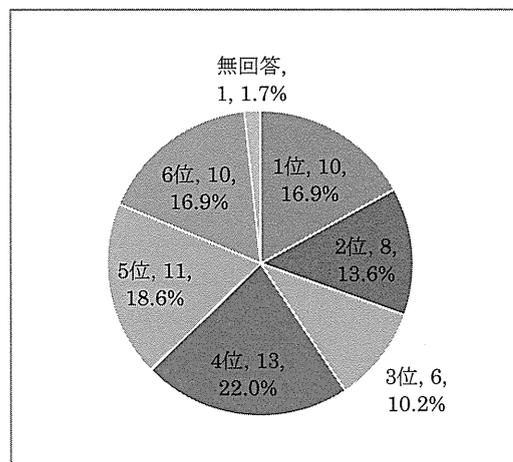
5) 金銭管理

対象利用者が大切にしていると思われる度合いは高くもなく低くもなかった。

表 4 5 金銭管理

	度数	パーセント
1位	10	16.9%
2位	8	13.6%
3位	6	10.2%
4位	13	22.0%
5位	11	18.6%
6位	10	16.9%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 4 5 金銭管理



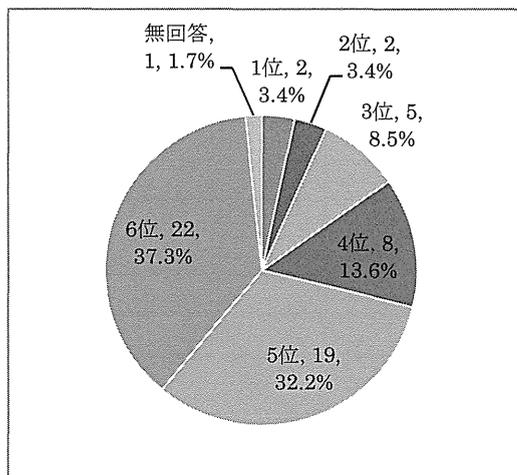
6) 移動・交通・住宅環境

対象利用者が大切にしていると思われる度合いは高くもなく低くもなかった。

表 4 6 移動・交通・住宅環境

	度数	パーセント
1位	2	3.4%
2位	2	3.4%
3位	5	8.5%
4位	8	13.6%
5位	19	32.2%
6位	22	37.3%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 4 6 移動・交通・住宅環境



(5) 利用者の地域生活の状況は利用者の評価と一致していると思うか

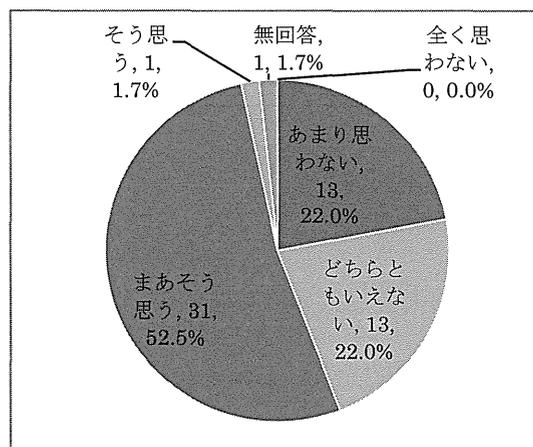
利用者の地域生活の状況について相談支援専門員と利用者の評価が一致していると思うかという項目について、あまり思わないが 13 名 (22.0%)、どちらともいえないが 13 名 (22.0%)、まあそう思うが 31 名 (52.5%)、そう思うが 1 名 (1.7%) であった。

このように、利用者の在宅生活の状況について相談支援専門員と利用者の評価がある程度一致しているとされる傾向にあった。

表 4 7 利用者の評価との一致度

	度数	パーセント
全く思わない	0	0.0%
あまり思わない	13	22.0%
どちらともいえない	13	22.0%
まあそう思う	31	52.5%
そう思う	1	1.7%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

図 4 7 利用者の評価との一致度



(6) 相談支援が利用者の評価の変化に影響していると思うか

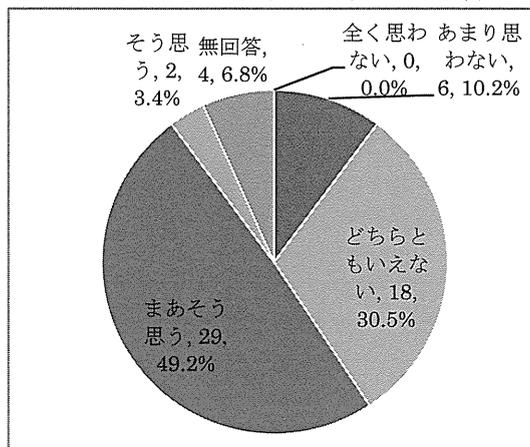
相談支援専門員の相談支援が利用者の評価の変化に影響しているかという項目について、あまり思わないが 6 名 (10.2%)、どちらともいえないが 18 名 (30.5%)、まあそう思うが 29 名 (49.2%)、そう思うが 2 名 (3.4%) であった。

このように、相談支援専門員の相談支援が利用者の評価の変化にある程度影響しているとされる傾向にあった。

表 4 8 利用者の評価の変化への影響

	度数	パーセント
全く思わない	0	0.0%
あまり思わない	6	10.2%
どちらともいえない	18	30.5%
まあそう思う	29	49.2%
そう思う	2	3.4%
無回答	4	6.8%
合計	59	100.0%

図 4 8 利用者の評価の変化への影響



(7) 相談支援が利用者の評価の変化に影響している場合どの領域に影響を与えたと思うか

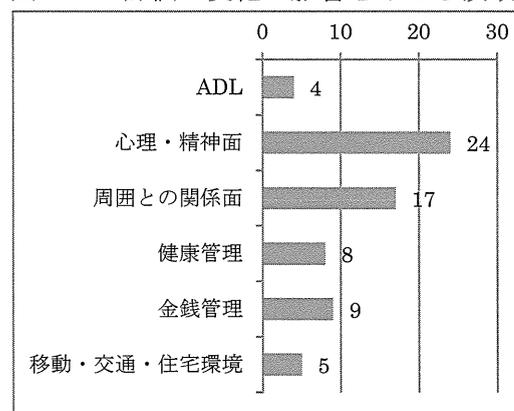
相談支援がどのような面において利用者の評価の変化に影響を与えるかという項目について、ADLが4名、心理・精神面が24名、周囲との関係面が17名、健康管理が8名、金銭管理が9名、移動・交通・住宅環境が5名であった。

このように、相談支援が利用者の評価の変化に影響を及ぼすことが想定される面について、心理・精神面や周囲との関係面が多くあげられる傾向にあった。

表 4 9 評価の変化に影響を与える領域

	度数
ADL	4
心理・精神面	24
周囲との関係面	17
健康管理	8
金銭管理	9
移動・交通・住宅環境	5

図 4 9 評価の変化に影響を与える領域



(8) 相談支援が利用者の評価の変化に影響している場合どのような支援内容がその変化に関連していると考えるか

どのような相談支援の支援内容が利用者の評価に影響していると考えられるかということについて、信頼関係を築き、サービスの提供にあたって詳細な調整を行い、チームメンバーがチームで援助することを認識することの重要性が指摘される傾向にあった。

1) 本人の生命・生活の維持からニーズの緊急性・優先度を考える

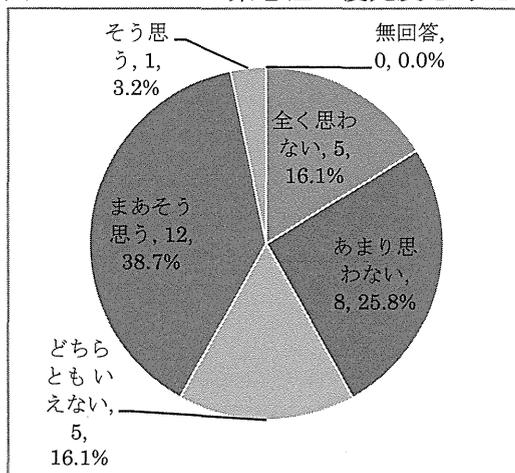
全く思わないが 5 名 (16.1%)、あまり思わないが 8 名 (25.8%)、どちらともいえないが 5 名 (16.1%)、まあそう思うが 12 名 (38.7%)、そう思うが 1 名 (3.2%) であった。

このように本人の生命・生活の維持からニーズの緊急性・優先度を考えるということについては、ある程度利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表 5 0 ニーズの緊急性・優先度を考える

	度数	パーセント
全く思わない	5	16.1%
あまり思わない	8	25.8%
どちらともいえない	5	16.1%
まあそう思う	12	38.7%
そう思う	1	3.2%
無回答	0	0.0%
合計	31	100.0%

図 5 0 ニーズの緊急性・優先度を考える



2) 本人・家族・介護者から情報収集する

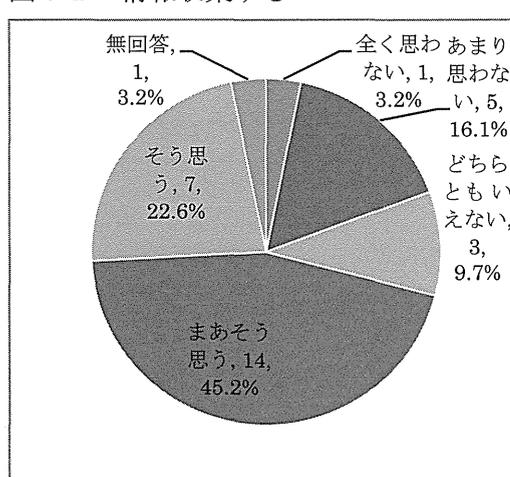
全く思わないが 1 名 (3.2%)、あまり思わないが 5 名 (16.1%)、どちらともいえないが 3 名 (9.7%)、まあそう思うが 14 名 (45.2%)、そう思うが 7 名 (22.6%) であった。

このように本人・家族・介護者から情報収集するということについては、ある程度利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表 5 1 情報収集する

	度数	パーセント
全く思わない	1	3.2%
あまり思わない	5	16.1%
どちらともいえない	3	9.7%
まあそう思う	14	45.2%
そう思う	7	22.6%
無回答	1	3.2%
合計	31	100.0%

図 5 1 情報収集する



3) 困っていることを傾聴し引き出す

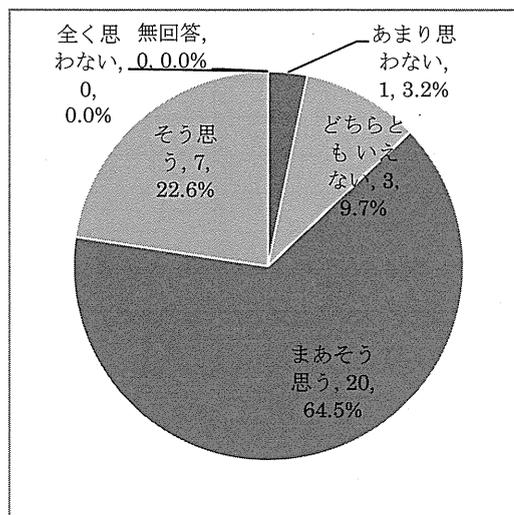
あまり思わないが 1 名 (3.2%)、どちらともいえないが 3 名 (9.7%)、まあそう思うが 20 名 (64.5%)、そう思うが 7 名 (22.6%) であった。

このように困っていることを傾聴し引き出すということについては、ある程度利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表5 2 困っていることを引き出す

	度数	パーセント
全く思わない	0	0.0%
あまり思わない	1	3.2%
どちらともいえない	3	9.7%
まあそう思う	20	64.5%
そう思う	7	22.6%
無回答	0	0.0%
合計	31	100.0%

図5 2 困っていることを引き出す



4) 希望を傾聴し引き出す

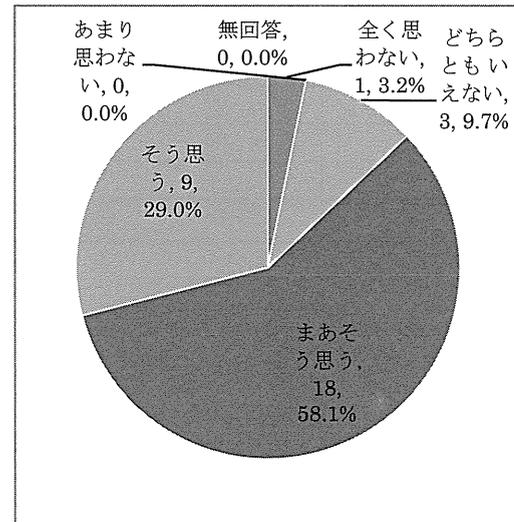
あまり思わないが1名(3.2%)、どちらともいえないが3名(9.7%)、まあそう思うが18名(58.1%)、そう思うが9名(29.0%)であった。

このように希望を傾聴し引き出すということについては、ある程度利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表5 3 希望を傾聴し引き出す

	度数	パーセント
全く思わない	1	3.2%
あまり思わない	0	0.0%
どちらともいえない	3	9.7%
まあそう思う	18	58.1%
そう思う	9	29.0%
無回答	0	0.0%
合計	31	100.0%

図5 3 希望を傾聴し引き出す



5) 本人の意向を確認する

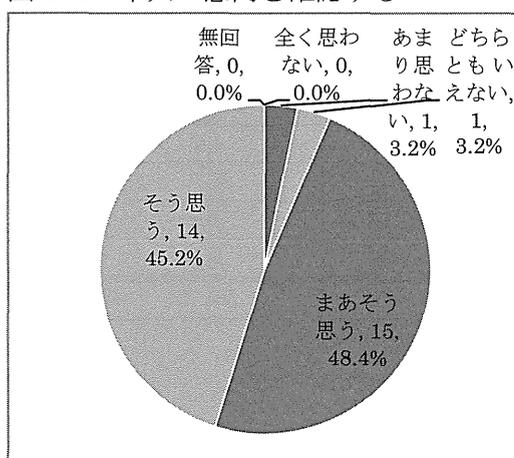
全く思わないが1名(3.2%)、どちらともいえないが1名(3.2%)、まあそう思うが15名(48.4%)、そう思うが14名(47.2%)であった。

このように本人の意向を確認するというということについては、ある程度利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表 5 4 本人の意向を確認する

	度数	パーセント
全く思わない	0	0.0%
あまり思わない	1	3.2%
どちらともいえない	1	3.2%
まあそう思う	15	48.4%
そう思う	14	45.2%
無回答	0	0.0%
合計	31	100.0%

図 5 4 本人の意向を確認する



6) 信頼関係を築く

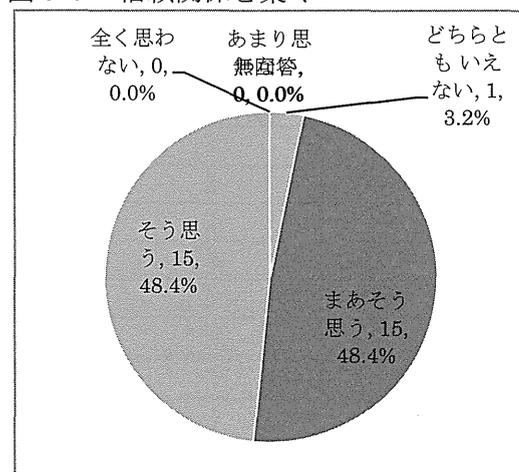
どちらともいえないが1名(3.2%)、まあそう思うが15名(48.4%)、そう思うが15名(48.4%)であった。

このように信頼関係を築くということについては、利用者の評価の変化に影響している、ある程度利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表 5 5 信頼関係を築く

	度数	パーセント
全く思わない	0	0.0%
あまり思わない	0	0.0%
どちらともいえない	1	3.2%
まあそう思う	15	48.4%
そう思う	15	48.4%
無回答	0	0.0%
合計	31	100.0%

図 5 5 信頼関係を築く



7) 緊急性の高いニーズに対し早期に集中して提供準備を行う

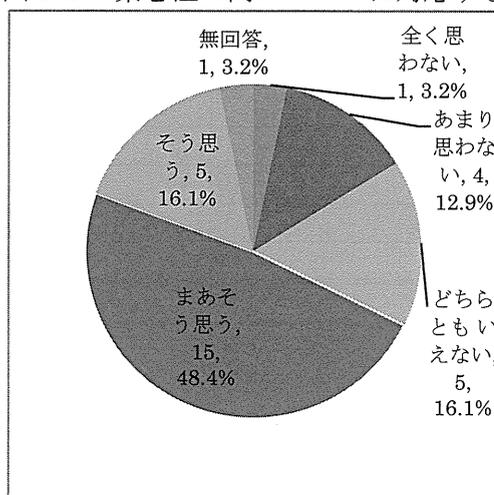
全く思わないが1名(3.2%)、あまり思わないが4名(12.9%)、どちらともいえないが5名(16.1%)、まあそう思うが15名(48.4%)、そう思うが5名(16.1%)であった。

このように緊急性の高いニーズに対し早期に集中して提供準備を行うということについては、ある程度利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表 5 6 緊急性の高いニーズに対応する

	度数	パーセント
全く思わない	1	3.2%
あまり思わない	4	12.9%
どちらとも いえない	5	16.1%
まあそう思う	15	48.4%
そう思う	5	16.1%
無回答	1	3.2%
合計	31	100.0%

図 5 6 緊急性の高いニーズに対応する



8) サービスの提供にあたり事業者と詳細な調整を行う

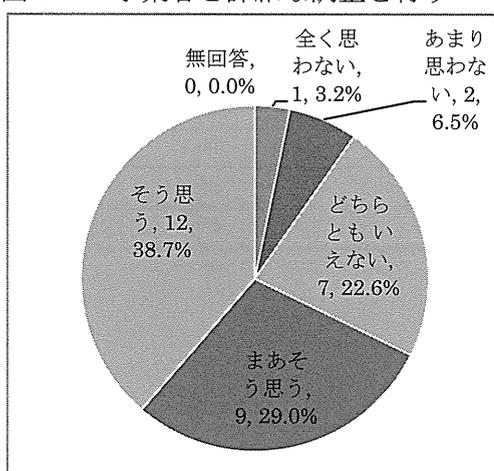
全く思わないが 1 名 (3.2%)、あまり思わないが 2 名 (6.5%)、どちらとも いえないが 7 名 (22.6%)、まあそう思うが 9 名 (29.0%)、そう思うが 12 名 (38.7%) であった。

このようにサービスの提供にあたり事業者と詳細な調整を行うということについては、利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表 5 7 事業者と詳細な調整を行う

	度数	パーセント
全く思わない	1	3.2%
あまり思わない	2	6.5%
どちらとも いえない	7	22.6%
まあそう思う	9	29.0%
そう思う	12	38.7%
無回答	0	0.0%
合計	31	100.0%

図 5 7 事業者と詳細な調整を行う



9) チームメンバーがチームで援助することを確認する

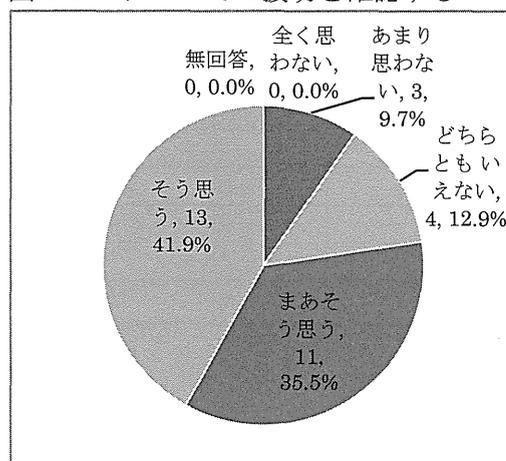
あまり思わないが 3 名 (9.7%)、どちらとも いえないが 4 名 (12.9%)、まあそう思うが 11 名 (35.5%)、そう思うが 13 名 (41.9%) であった。

このようにチームメンバーがチームで援助することを確認するというについては、利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表 5 8 チームでの援助を確認する

	度数	パーセント
全く思わない	0	0.0%
あまり思わない	3	9.7%
どちらともいえない	4	12.9%
まあそう思う	11	35.5%
そう思う	13	41.9%
無回答	0	0.0%
合計	31	100.0%

図 5 8 チームでの援助を確認する



1 0) 利用者ニーズの現状や変化を把握する

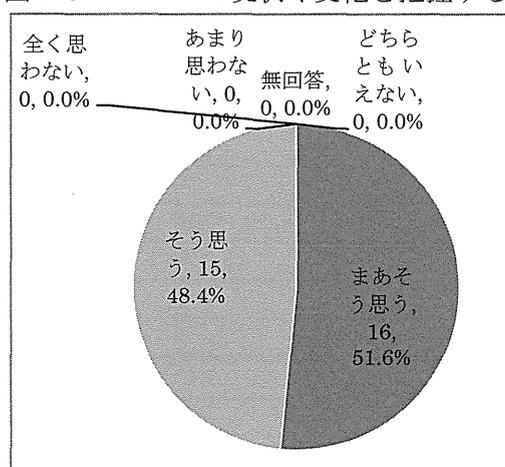
まあそう思うが 16 名 (51.6%)、そう思うが 15 名 (48.4%) であった。

このように利用者ニーズの現状や変化を把握するということということについては、ある程度利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表 5 9 ニーズの現状や変化を把握する

	度数	パーセント
全く思わない	0	0.0%
あまり思わない	0	0.0%
どちらともいえない	0	0.0%
まあそう思う	16	51.6%
そう思う	15	48.4%
無回答	0	0.0%
合計	31	100.0%

図 5 9 ニーズの現状や変化を把握する



1.1) 利用開始後の利用者の状況・不安や苦情を確認し対応する

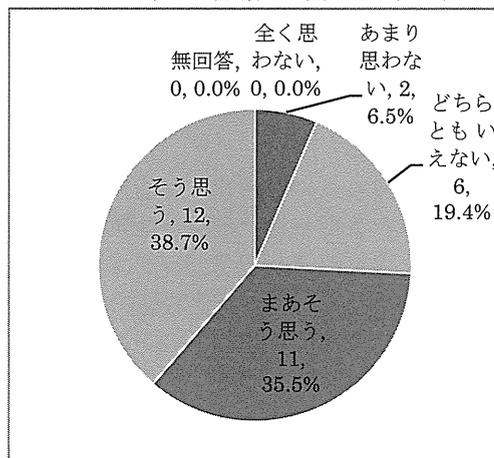
あまり思わないが 2 名 (6.5%)、どちらともいえないが 6 名 (19.4%)、まあそう思うが 11 名 (35.5%)、そう思うが 12 名 (38.7%) であった。

このように利用開始後の利用者の状況・不安や苦情を確認し対応するということについては、利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表 6 0 不安や苦情を確認し対応する

	度数	パーセント
全く思わない	0	0.0%
あまり思わない	2	6.5%
どちらともいえない	6	19.4%
まあそう思う	11	35.5%
そう思う	12	38.7%
無回答	0	0.0%
合計	31	100.0%

図 6 0 不安や苦情を確認し対応する



1 2) サービス提供の結果をチームメンバーから把握する

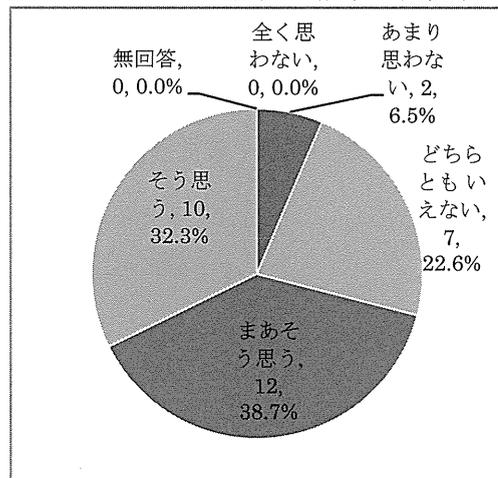
あまり思わないが 2 名 (6.5%)、どちらともいえないが 7 名 (22.6%)、まあそう思うが 12 名 (38.7%)、そう思うが 10 名 (32.3%) であった。

このようにサービス提供の結果をチームメンバーから把握するというものについては、ある程度利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表 6 1 サービス提供の結果を把握する

	度数	パーセント
全く思わない	0	0.0%
あまり思わない	2	6.5%
どちらともいえない	7	22.6%
まあそう思う	12	38.7%
そう思う	10	32.3%
無回答	0	0.0%
合計	31	100.0%

図 6 1 サービス提供の結果を把握する



(9) 相談支援が利用者の評価の変化に影響している場合、具体的にどのような取り組みを行っているか

相談支援が利用者の評価の変化に影響している場合の具体的な取り組みとしてあげられた自由記述によると、本人の気持ちに寄り添う対応、連携に基づく対応、サービスコーディネーターに基づく対応、家族との関係調整、健康面への対応、状況に応じた対応が行われている様子がうかがわれた。

1) 本人の気持ちに寄り添う対応

- ・本人のストレングスを一緒に捜し、将来への道筋を一緒に考えた
- ・余暇の過ごし方がなかなかない中での来所であるため、その週の出来事や本人の気持ち等をお聞きしている
- ・利用する気持ち（ニーズ）に目を向けたことから本人の意向、希望が見えはじめた
- ・本人が自分の頑張っている所、活動に真面目に取り組んでいる所、他メンバーに与えている良い影響を本人にフィードバックする
- ・将来への漠然とした不安軽減を図っている状況
- ・本人にとって大事だと思えることは、話したい時に話ができること
- ・本人の気持ちの傾聴
- ・生活の歩みのふり返り
- ・身近な相談相手として定期的に話を聞く機会を設けている
- ・連絡する手順、本人の気持ちの確認や整理を一緒に考える
- ・不安の解消
- ・関わっている機関が責任を持ってサービス提供をし、見捨てない事を何度も確認する事
- ・本人にとっての安心が得られる他者（支援者）との距離感を大事にした

2) 連携に基づく対応

- ・関係者とケア会議を行いながら各方面から本人への働きかけを行った
- ・本人を含めたケア会議開催
- ・サービス提供事業者（ヘルパーステーション）、別居の兄との密接な連携
- ・居宅介護事業所やねずみ駆除業者等と連携し駆除がスムーズに行えた
- ・就業・生活支援センターが併設していることで就労面、生活面で連携がスムーズに図れ、すぐに対策が打てること
- ・サービス提供機関、就業・生活支援センターと連携を取り就労面、生活面でのフォローを行っている

3) サービスコーディネートに基づく対応

- ・金銭管理については、あんしんセンター利用を提案し今は安心感をもってお子さんとの生活を営んでいる
- ・サービスの調査や導入支援を行った際、涙ながらにヘルパーさんや事業所に自身の事を訴えていた

4) 家族との関係調整

- ・一家支援という形でのアプローチを継続して実施している
- ・本人と家族間の関係性を良好となるように支援する

5) 健康面への対応

- ・途中統合失調症を発病され精神心理、ADL、健康面を注視するようにした
- ・動作緩慢になったりしてヘルパーから連絡あれば状況確認し医療へつなぐ

- ・体調を崩し緊急入院の際、手続きや状況確認等の支援を行い緊急時の支援に安心してくれた

6) 状況に応じた対応

- ・交通事故にあい状況が変化した際の対応
- ・生活上の変化があればすぐに相談してもらえる状態にあること
- ・年金取得、保険請求に関する対応
- ・正確な情報提供

(10) 相談支援以外の要因が利用者の変化に関連する場合、どのような要因が考えられるか

相談支援以外の要因が利用者の変化に関連する場合としてあげられた自由記述によると、本人の対人関係、本人を取り巻く生活環境、本人への対応、本人の状態、本人の生活習慣、本人の経験が影響している様子がうかがわれた。

1) 本人の対人関係

- ・人的交流の増加
- ・地域活動支援センター利用者同士の交流
- ・日中活動先（通所先）で友人に出会えたり、休日等の居場所（福祉関係ではなく）が見つかった時に本人の精神的な活動範囲が広がってくる
- ・友人等とのつき合いや関わりから社会体験や生活の幅が広がる様な体験をしている（良くも悪くも）
- ・仲間と関わり他者の力になれたと感じることで自信を持てるようだ
- ・人との関わり（家族、友人、ヘルパー等）
- ・友人（障がい者）との関係：当事者同士で色々な話をして情報収集したり外出する機会につながったり生活に好影響を及ぼしている
- ・ライン、フェイスブックによるコミュニケーション：対人関係を拡大し情報収集にも役立っている。
- ・別居の妹とのつながり
- ・伯母とのつながり
- ・精神科デイケアの友人の来訪で
- ・母子の2人暮らしなので親子関係の強弱が影響を与える
- ・他者（メンバー、家族）との関わりにより自信を付けたり、精神的に満足したり、あるいはその逆のことが多くある

2) 本人を取り巻く生活環境

- ・家族状況、住環境の変化
- ・家族が重度の精神障害にあり、数年かけて入院につながったため、自宅で落ちついてすごせる状況が整い自身について考えられる時間ができたと思われる
- ・本人が最も信頼されているご家族（両親、兄弟など）に何かがあった際の心理的不安、情緒的不安定
- ・金銭管理に難があり経済的状况の変化により判断能力に影響を及ぼす時がある

- ・近隣住民との関係が深まってきたこと
- ・家族関係（過日、母の死。兄のサポート）
- ・家族の変化（意向、健康、関係性など）
- ・家族から本人への影響
- ・家族との関係や本人が目標としている資格試験への意欲の上下が変化に関連すると思います。
- ・家族の状況の変化（長年2人で生活してきた母が高齢者施設に入所したことにより単身生活となった）
- ・家族の変化（子供たちの成長、子供たちが母の味方になってくれるようになったことでの力強さ）
- ・場が出来た時に変化が出ると思われる
- ・家族や本人が必要としているサービス量が確保される事
- ・親類、絶縁関係の家族、疎遠となっている精神障がいのある子どもと面会などで会うと変化があると思われる（不安定になる）

3) 本人への対応

- ・学校の受け止め
- ・ヘルパーが本人の意向に沿った外出や介護などの支援をすることで自分の思いが言えるようになる
- ・ヘルパーの支援により生活状況が安定している
- ・ケアホーム職員、通所事業所職員が本人に合った関わりをして、本人の意思を尊重した支援をしており、そのことが本人の自信、自尊心につながっている
- ・関わっている職員の対応、態度
- ・医療：Dr から指導を受けたりカウンセリングを受け心身の安定につながっている
- ・就業・生活支援センターとの連携による支援（就労支事業所も含む）
- ・就業・生活支援センターの支援（就労支事業所含む）
- ・日常生活支援事業利用
- ・就業・生活支援センター等支援機関によるアプローチ等（就労支援、居宅介護支援、移動支援、その他父母に関わる支援者からのアドバイス等）
- ・なじみのヘルパーなどの変化

4) 本人の状態

- ・症状の変化（進行性の病気であるため）。
- ・精神症状悪化による情緒面での不安定さ、それに伴う判断能力の低下
- ・潜在していた本人の生活力が顕在化したことと言える
- ・本人が自立して相談支援の利用が少なくなった

5) 本人の生活習慣

- ・食事摂取方法、形態の変化にともなう体調の安定化
- ・本人の成長と栄養摂取量（母の努力）の変更（増加）による体力の増強とそれにとまなう通学回数

6) 本人の経験

- ・在宅生活を開始してからの時間経過による生活体験の積み重ね
- ・経験の場：対人関係、社会経験が無かった方だった為、人にもまれながら体験し学ぶことが必要であった

(1 1) 地域で暮らす利用者の力

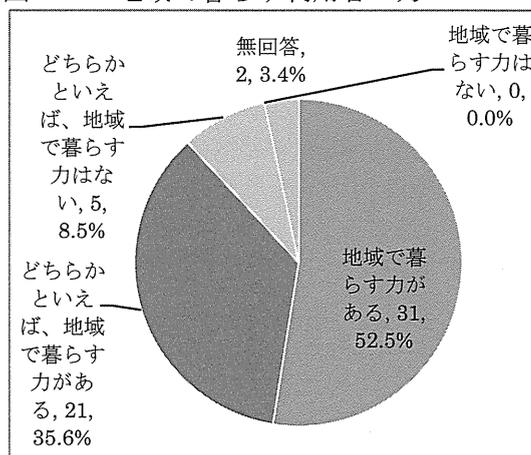
地域で暮らす力があるが 31 名 (52.5%)、どちらかといえば地域で暮らす力があるが 21 名 (35.6%)、どちらかといえば地域で暮らす力はないが 5 名 (8.5%) であった。

このように、利用者には地域で暮らす力があると評価される傾向にあった。

表 6 2 地域で暮らす利用者の力

	度数	パーセント
地域で暮らす力がある	31	52.5%
どちらかといえば、地域で暮らす力がある	21	35.6%
どちらかといえば、地域で暮らす力はない	5	8.5%
地域で暮らす力はない	0	0.0%
無回答	2	3.4%
合計	59	100.0%

図 6 2 地域で暮らす利用者の力



(1 2) 対象利用者が施設入所を考えたことがあるかどうか

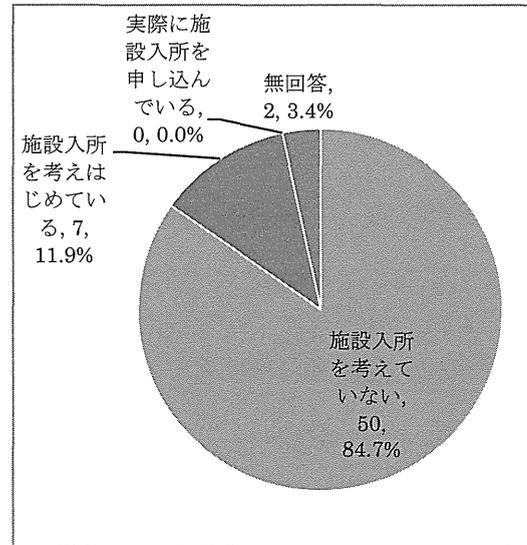
施設入所を考えていないが 50 名 (84.7%)、施設入所を考えはじめているが 7 名 (11.9%) であった。

このように、利用者は施設入所を考えていないと評価される傾向にあった。

表 6 3 施設入所を考えたことがあるか

	度数	パーセント
施設入所を考えていない	50	84.7%
施設入所を考えはじめている	7	11.9%
実際に施設入所を申し込んでいる	0	0.0%
無回答	2	3.4%
合計	59	100.0%

図 6 3 施設入所を考えたことがあるか



(13) 現在利用しているサービスの有無

現在利用しているサービスについて、居宅介護、就労継続支援（B型）、移動支援事業、自立支援医療の利用がそれぞれ2割を超えていた。

1) 居宅介護（ホームヘルプ）

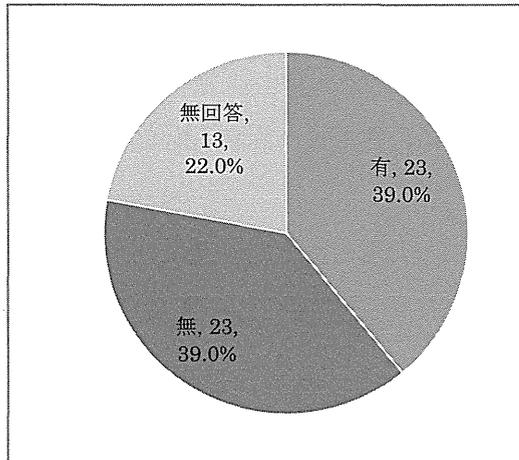
居宅介護（ホームヘルプ）の利用について有りが23名（39.0%）、無しが23名（39.0%）であった。

このように、居宅介護（ホームヘルプ）の利用は有りと無しがそれぞれ半々を占めていた。

表 6 4 居宅介護（ホームヘルプ）

	度数	パーセント
有	23	39.0%
無	23	39.0%
無回答	13	22.0%
合計	59	100.0%

図 6 4 居宅介護（ホームヘルプ）



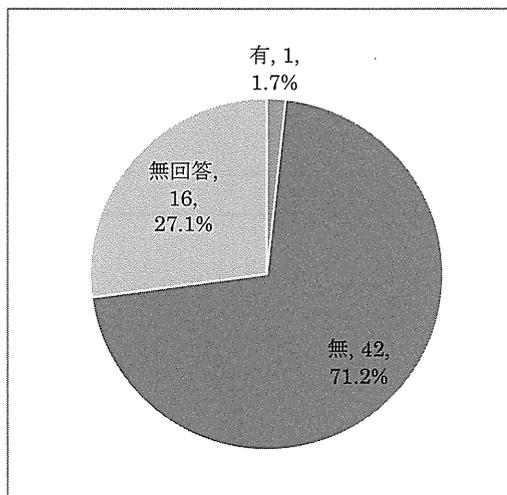
2) 重度訪問介護

重度訪問介護の利用について有りが1名（1.7%）、無しが42名（71.2%）であった。このように、重度訪問介護の利用は無しが多くの部分を占めていた。

表 6 5 重度訪問介護

	度数	パーセント
有	1	1.7%
無	42	71.2%
無回答	16	27.1%
合計	59	100.0%

図 6 5 重度訪問介護



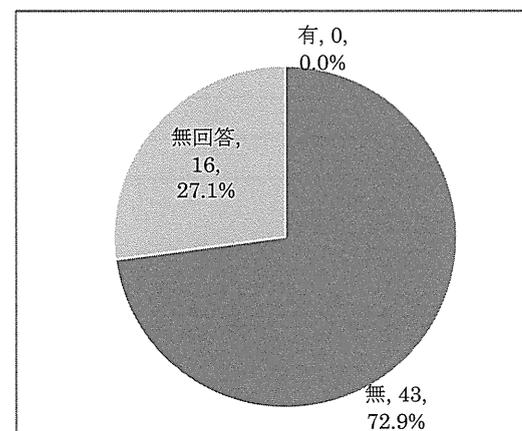
3) 行動援護

行動援護の利用について無しが 71 名 (72.9%) であった。
 このように、行動援護の利用は全くない状態にあった。

表 6 6 行動援護

	度数	パーセント
有	0	0.0%
無	43	72.9%
無回答	16	27.1%
合計	59	100.0%

図 6 6 行動援護



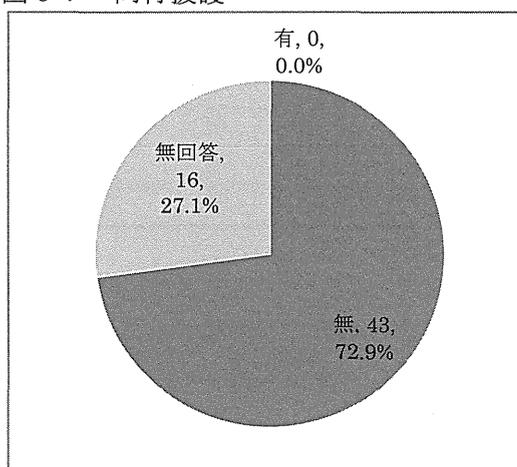
4) 同行援護

同行援護の利用について無しが 43 名 (72.9%) であった。
 このように、同行援護の利用は全くない状態にあった。

表 6 7 同行援護

	度数	パーセント
有	0	0.0%
無	43	72.9%
無回答	16	27.1%
合計	59	100.0%

図 6 7 同行援護



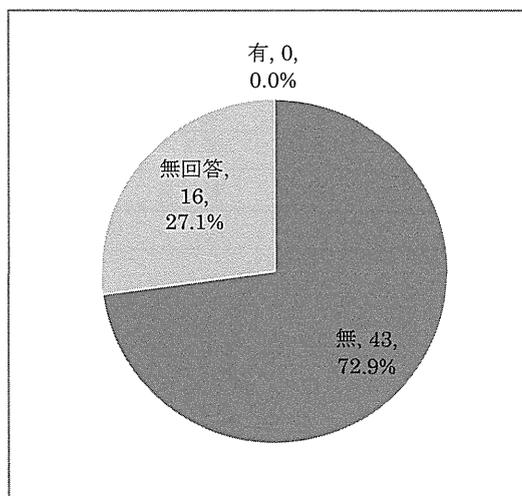
5) 重度障害者等包括支援

重度障害者等包括支援の利用について無しが43名(72.9%)であった。
 このように、重度障害者等包括支援の利用は全くない状態にあった。

表 6 8 重度障害者等包括支援

	度数	パーセント
有	0	0.0%
無	43	72.9%
無回答	16	27.1%
合計	59	100.0%

図 6 8 重度障害者等包括支援



6) 短期入所サービス

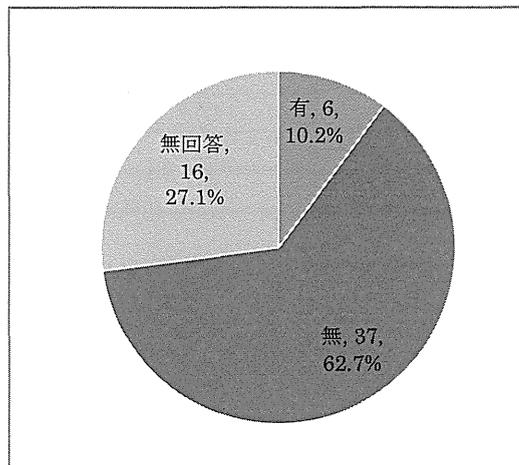
短期入所サービスの利用について有りが6名(10.2%)、無しが37名(62.7%)であった。

このように、短期入所サービスの利用は無しが多くの部分を占めていた。

表 6 9 短期入所サービス

	度数	パーセント
有	6	10.2%
無	37	62.7%
無回答	16	27.1%
合計	59	100.0%

図 6 9 短期入所サービス



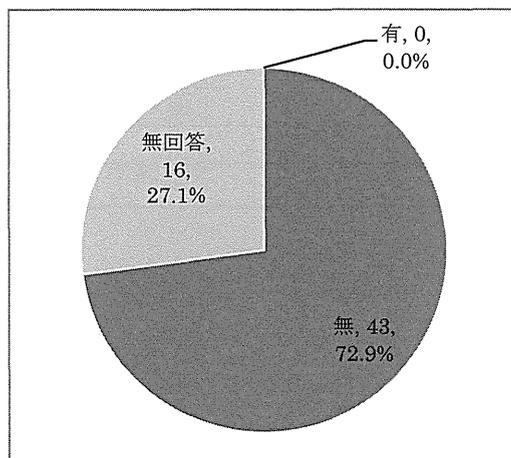
7) 療養介護

療養介護の利用について無しが 43 名 (72.9%) であった。
 このように、療養介護の利用は全くない状態にあった。

表 7 0 療養介護

	度数	パーセント
有	0	0.0%
無	43	72.9%
無回答	16	27.1%
合計	59	100.0%

図 7 0 療養介護



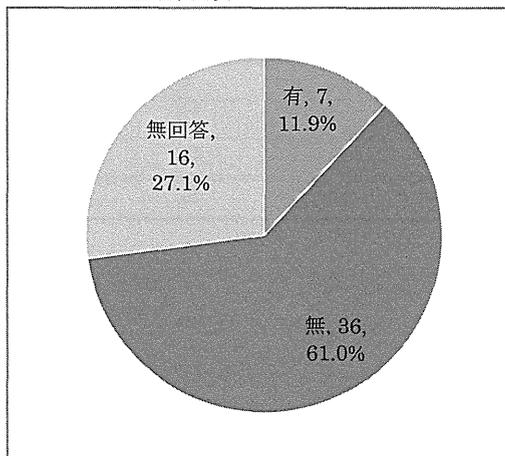
8) 生活介護

生活介護の利用について有りが 7 名 (11.9%)、無しが 36 名 (61.0%) であった。
 このように、生活介護の利用は無しが多くの部分を占めていた。

表 7 1 生活介護

	度数	パーセント
有	7	11.9%
無	36	61.0%
無回答	16	27.1%
合計	59	100.0%

図 7 1 生活介護



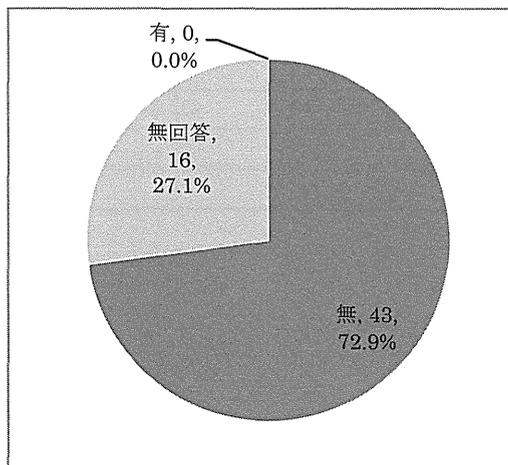
9) 施設入所支援

施設入所支援の利用について無しが 43 名 (72.9%) であった。
 このように、施設入所支援の利用は全くない状態にあった。

表 7 2 施設入所支援

	度数	パーセント
有	0	0.0%
無	43	72.9%
無回答	16	27.1%
合計	59	100.0%

図 7 2 施設入所支援



1 0) 共同生活介護 (ケアホーム)

共同生活介護 (ケアホーム) の利用について有りが 5 名 (8.5%)、無しが 40 名 (67.8%) であった。

このように、共同生活介護 (ケアホーム) の利用は無しが多くの部分を占めていた。